



せせらぎ SeSeragi



漢方のよさ No.143 号 ～ 腰痛Ⅲ ～

発行日：2017年 3月5日(日)

発行者：浮田 徹也

発行所：医療法人 せせらぎ会 浮田クリニック
〒520-0242 滋賀県大津市本堅田 6-36-1
☎077-574-3751 ☎077-574-3792
HP: <http://www.ukita.gr.jp>
✉ e-mail: kanpou@ukita.gr.jp

江戸時代に活躍した写実主義の画家、円山応挙のことが以前から気になっていた。

享保18年(1733年)、丹波国桑田郡穴太(あのお)村(京都府亀岡市)に貧農家の次男として生まれ、幼いころ菩提寺の金剛寺に預けられたが、絵が好きだったので、15歳の寛延1年(1748年)、両親と共に京に移り、京都四条通柳馬場の尾張屋中島勘兵衛という玩具商、呉服屋で丁稚奉公をしながら絵の勉強を始めた。この尾張屋でオランダ・中国渡来の眼鏡絵に出会ったことが後の応挙に大きな影響を及ぼした。眼鏡絵とは、箱にレンズと反射鏡をつけて、そこから箱の中のをぞき浮き出た箱の奥の絵を見るというものだった。

17歳になると石田幽汀の門(狩野探幽から分かれた鶴沢探鯨に学ぶ)に入ったが、その生活は苦しく自分の描いた絵を売って何とか暮らしを支えていた。大乘寺の住職密蔵上人と出会ったのはそんな時で、上人はまだ無名であった彼の画才を見抜き、応挙が江戸で絵の修行をする費用を工面した。3年後、応挙は洋画の遠近法や写生法を身に付け、眼鏡絵の画家として名が高まり、「四条河原遊涼図」、「石山寺図」、「賀茂競馬図」、「円山座敷図」、「三十三間堂図」など京都風景の眼鏡絵を制作した。

30歳を過ぎると応挙は、眼鏡絵で覚えた技術を取り入れて、山、木、花、鳥などの日本画を多く描くようになり、その後10年は、絵の才能を認められて近江国(滋賀県)園城寺の円満院宮祐常門主に召し抱えられ、『七難七福図』、『孔雀牡丹図』などを描き、東洋の古い絵を写し学びながら、さらに腕をみがき、豪商三井家に『雪松図』を残している。33歳の明和3年(1766年)、「銭舜举(中国宋末 - 元初の画家)に應ずる」という思いでから「応挙」を名乗り始めた。

40歳を過ぎたころから、後の世に残る、ほんとうにすばらしい絵を画くようになった。特に、屏風(びょうぶ)絵や、襖(ふすま)絵に力をそそぎ『孔雀図屏風』『遊虎遊鶴図襖絵』『雪松図屏風』などで、単に目に映るものを写実するだけでなく、透視遠近法・陰影法・大小遠近法・鮮明度差遠近法・明度差遠近法といった技法を巧みに操り、絵の中に様々な仕掛けを盛り込み、天一の画家と称えられ、応挙の名をしたって集まった弟子たちは多いときは1000を超えたと言われ、その中でも著名な弟子には呉春や長沢蘆雪、森徹山、源琦などで、この一派は「円山四条派」と称され、京都画壇の源流となった。

応挙の絵は大眾に受け、「応挙の幽霊の絵は他の絵師とは違う。とても美人だ」「応挙の幽霊は掛け軸から出て来る。左甚五郎の彫った龍が夜な夜な水を飲みに行くのと同じだ」と評判だった。朝廷の御用絵師にもなれる実力を持ちながらも、あえてそれをせずに厳しく自らの写実表現を磨いた。その実直な性格を、彼と親交があった与謝蕪村が「筆渾く 応挙が鉢に 氷かな」と表現している。応挙も「時に従いありのままとそ我人共よろし」の言葉を残している。先入観を持って、人の肩書や物事を見るのではなく、そのまま、ありのままでよいというのだろう。

1787年、55才の応挙は、改築の時期にさしかかっていた恩のある大乘寺を深く憂い、8年間5回に渡って寺を訪れ、子弟や門弟と共に襖絵や軸物165点を描いた。大乘寺は(天平17年(745)基行菩薩によって開かれ、別名「応挙寺」と呼ばれている。

応挙の手がけた襖絵は「孔雀の間」「芭蕉の間」「山水の間」の三間に残され、61歳頃から眼病と中風に悩まされ、体も弱っていた応挙だったが、最後の力を振り絞って16枚の金箔地襖に水墨で3羽の孔雀と松、岩を描いた孔雀の間の襖絵を仕上げた3ヵ月後の7月17日、京の自宅で63歳で亡くなった。



円山応挙



円山応挙作



金剛寺



円山応挙作



大乘寺門



腰痛Ⅲ

脊椎、靱帯や筋肉(脊髄腫瘍、腰椎椎間板ヘルニア、腰椎圧迫骨折など)、内臓疾患(腎盂炎、子宮内膜症、子宮下垂、子宮付属器炎など)、心理的要素(うつ病、心身症など)、血行不全(瘀血)、むくみ(水毒)などが要因になる。年齢、天候、季節(エアコン)、体形(むくみ)、年齢、筋肉痛(筋緊張度、部位、部位の変動)、疲労、お産(産後)などを参考にする。

東洋医学的腰痛病因は、気象や環境(温度)などの風寒湿の「外因」、五臓のうち肝、腎、脾の機能異常の「内因」、生活習慣、外傷(打撲、骨折)の「不内外因」に分けられる。漢方では「老人イコール腎虚」。加齢、慢性疾患(房事過多、生活の不摂生、先天的な体質虚弱)では「虚」の状態、全身的な機能の低下が恒常的に存在している。「胃気が衰える気虚」「肝の衰えによる血虚」「腎の衰えによる腎虚」が基礎的な病理として複雑的に存在し、外界から「風寒湿」、体内から「気滞、瘀血、水滞」などが絡んで腰痛が起こる。特に腎虚は年齢を重ねるごとに大きく影響すると言える。腰が重だるい、冷えて痛む、仰臥して安静にしても痛みが強い、寝返りが困難、寒冷、雨天、降雨によって症状が増悪。腰を温めると痛みが一時楽になるは「風寒湿」、強弱を繰り返しながら長期に渡る、過労によって増悪、体を休め、腰を揉むと改善、下肢の倦怠感、脱力感を伴うが横臥すると楽になるなどの場合は「腎虚」、羸瘦、易疲労、自汗、悪寒、顔色不良、めまい、息切れ、皮膚の乾燥、四肢の倦怠感、筋肉の痙攣などの症状をとともえば「気血両虚」、固定性の腰痛、四肢の冷え、低体温、腹痛、下痢傾向、頻尿、尿量減少、浮腫を伴えば「裏寒」、引きつるような痛み、痛みは陰部や大腿部内側、温めると痛みが和らぐ、手の指先から肘にかけて或は足先から膝にかけて強く冷える、全身に寒気の場合「寒疝」、痛みは「固定性」、「日中は軽く、夜間は重い」、痛みの程度が時間によって変化、特に夜半から朝方にかけて疼痛、激痛のために寝返りを打てない、目覚める、時間の経過と共に疼痛は軽減する、女性では月経障害による諸症状を伴う場合「瘀血」、精神的ストレスや過労、気の流れが渋滞、腰痛は遊走性で時間と共に変化しやすい、胸部の苦悶感、脇肋部の脹満感、情緒不安、憂鬱、咽喉の異物感あるいは閉塞感の場合「気滞、肝気鬱結」である。このような様々な原因を考えて治療を行う。

では、**実例**に移ります。

蕁麻疹、38歳、1年前から入浴後蕁麻疹が出てきたので皮膚科受診し、抗アレルギー剤とステロイド外用薬で一時改善したが、6ヶ月前から徐々に再発してきた。顔色やや赤く、便通、食欲に問題はない。脈浮細緩、舌淡紅色、無苔。お腹は柔らかく、胸脇肋下部の抵抗&圧痛、心窩部痛、臍上横動悸、両側臍下部抵抗圧痛もない。そこで、桂枝湯、麻黄湯を処方した。1ヶ月後蕁麻疹消え、3ヶ月服用して廃棄。

鬱状態、34歳、女性、仕事を任せられるようになり、文句を言わない人と思われ、新人の教育を任せられ、仕事に行く日には朝起きれなくなった。食欲不振、便秘、夕方微熱、意欲低下を自覚。顔色青白、舌は淡紅色、乾燥薄白苔。脈浮弦数、お腹は硬く、胸脇肋下部に抵抗&圧痛、心窩部硬く、臍上横に動悸、両側臍下部に抵抗圧痛、そこで、柴胡清肝湯、黄連解毒湯を処方した。4ヶ月すると気分も改善してきた。

月経前緊張症、23歳、月経前にイライラ、憂鬱、頭痛、耳閉、便秘を強く自覚し、生理が始まると症状がなくなる。下肢や腰の冷えを訴えて来院(生理周期30日)。154cm、46kg、110/55。顔色両ほほやや赤く、顔はややくすんでいる。脈沈弱細遅。舌、淡暗紅色、湿潤、薄白苔。お腹は緊張傾向、胸脇肋下部に抵抗&圧痛。そこで、加味逍遙散、香蘇散、黄連解毒湯を処方した。3ヶ月後症状はほとんどなくなった。

[院長]

蕁麻疹

食物、薬剤、日光、寒冷、刺激(雑草、虫、髪の毛)、発汗、圧迫、感染(慢性扁桃腺炎、胃潰瘍(ヘリコバクターピロリ)などの原因対策をすべきです。抗ヒスタミン剤、抗アレルギー剤、副腎皮質ホルモンだけでなく、漢方薬も利用してください。過労やストレスも原因のひとつです。



鬱状態

無気力感、不安感、絶望感、罪悪感といった精神的な症状が2週間以上続く場合は「鬱病」が疑われます。完治まで多少の時間はかかりますが必ず治ります。これといった理由もないケース(内因性)と仕事や人間関係、糖尿病やガンなどのストレス(心因性)が原因の場合があります。重要な決定は先送りにし、休暇をとったり、家族の協力の元でゆっくり生活することが必要です。思春期や働き盛りに多いのですが、高齢者でも目立ち、わが国では高齢者の10人に1人が何らかのうつ症状を持っていると言われています。体の機能が衰えてくる、退職して社会的役割を失う、子供が独立して離れていく、同年代の人が亡くなるなど多くの喪失体験がうつ状態に陥らせるのです。認知症と間違えることもあります。気の落ち込みや体調不良に目を向けましょう。



月経前緊張症

月経前3日~10日に、いらいら、のぼせ、下腹部膨満感、下腹部痛、腰痛、憂鬱、落ち着かない、頭痛、乳房痛、はきけ、むくみ(顔、手足)、皮膚症状などをいつも感じていませんか。でも、月経が終わると症状が消えませんか。このような方の治療には漢方薬が適しています。体と心の不調を改善することができます。何か病気が隠されていないか血液や尿検査、超音波検査などを受けて安心することも大切です。心身の疲労を軽減する目的で胎盤成分を利用した「プラセンタ治療」も体に優しい治療です。また、ホルモンバランスが乱れた方はピルで排卵抑制する治療も有効です。



当院の漢方治療

剤型

- ・エキス漢方薬：**錠剤タイプの漢方薬と顆粒タイプの漢方薬**があります。
- ・漢方煎じ薬：良質の生薬を組み合わせた漢方薬。25～30分煮て作ります。当院の**顆粒タイプの漢方薬**は、胃になじみやすい反面、湿気に弱いので、乾燥剤の入った容器に入れ、しっかり蓋をして下さい。それでも固まる場合、**冷蔵庫(冷凍庫)で保管**して下さい。

適応症

便秘、頭痛、肩こり、腰痛、食欲不振、疲れ、冷え、むくみ、痛み、痺れ、動悸、めまい、ほてり、発熱、かゆみ、排尿障害…などすべての症状。

漢方薬のよく効く疾患

アトピー性皮膚炎、更年期障害、便秘、腰痛、肩こり、子宮内膜症、子宮筋腫、生理痛、冷え性、不妊症、低血圧、めまい、頭痛、下痢、動悸、過敏性大腸、慢性疲労、風邪、肥満、夏ばて、慢性肝炎、肝硬変、慢性胃炎、慢性脾炎、慢性胆嚢炎、胆石、胃十二指腸潰瘍、痛風、慢性膀胱炎、血尿、前立腺肥大、蕁麻疹、接触性皮膚炎、にきび、慢性中耳炎、慢性扁桃腺炎、慢性副鼻腔炎、口内炎、口腔乾燥、虚弱児、切迫早産、妊娠中毒症、産後回復不全、乳腺炎、乳汁分泌不全、乳腺症、上下肢浮腫、膝関節症、神経痛、帯状疱疹後神経痛、下肢静脈瘤、クーラー病…。

漢方薬と西洋薬を併用することの多い疾患

高血圧、高脂血症、高コレステロール血症、アレルギー性鼻炎、不眠症、自律神経失調症、うつ病、骨粗鬆症、糖尿病、慢性関節リウマチ、痔、肝硬変、喘息、腎炎、甲状腺疾患、夜尿症、脳梗塞後遺症、脳出血後遺症、抗癌剤使用後倦怠感、抗癌剤使用時副作用…。

エキス漢方薬と漢方煎じ薬

- ・軽症・中程度の病気：漢方製剤(顆粒あるいは錠剤)を組み合わせで治療。
- ・重度の病気、エキス剤が無効：漢方煎じ薬で治療。

女性の方、男性の方、お子様、高齢の方、ご相談下さい。

問診、望診(舌診)、聞診、切診(腹診と脈診)の東洋医学的診察法(四診)や検査(超音波、血液、便、尿、痰腫分泌物、心電図、骨量測定…)

漢方入浴剤

アトピーの方の漢方入浴剤もお作りします。

健康保険証の確認

保険証は毎月確認することになっています。保険が使えなくなると困りますから、保険証の変更は早急に受付に連絡して下さい。

漢方予約外来

漢方専門医(兼漢方専門医指導医)に本格的な漢方治療を希望される方のための「漢方予約外来」です。
ご希望の方は当院受付又はお電話で診療時間内に予約してください。
診療日時：毎週金曜日午後2時～3時20分、一人20分。

ホームページ (<http://www.ukita.gr.jp>)

- ・トップページ (お知らせの欄、診療日程カレンダー)
- ・産科と婦人科のページ (入院、食事、各種教室、指導)
(癌検診、不妊症、更年期障害)
- ・漢方治療のページ (漢方治療)
- ・各検診と予防接種のページ (健診、ブライダルチェック、予防接種)
- ・当院の施設案内、当院への交通 (車、J R)

素問

『鍼経』9巻と『素問』9巻からなる『黄帝内経』18巻は、前漢代に編纂されたが、現在我々が目にするのは、762年唐の時代に王氷の表した『素問』と『靈樞』を下に、1155年に南宋の史崧が新たに校訂し、24巻81篇として編纂したものである。幸い日本には7世紀ころ、唐代の楊上善が『素問』と『靈樞』を合わせて編纂した『黄帝内経太素』の写本が京都の仁和寺に所蔵されている。まず『鍼経』が経脈、経穴、刺鍼、また営衛、気血など系統的に編纂され、次に『素問』が陰陽、五行、三才(天、地、人のこと)、世界を総合的、体系的に知るための枠組みという理論的に基づいて医学、易学、天候学、星座学、気学、薬学、運命学と広くさまざまな分野について編纂され、紀元前100年ころから『靈樞』が実践書として編纂されたと考えられる。素問の記載には、例えば、たとえば、『素問』の風論篇第四十二は感染症について(風は感染症のこと)、痺論篇第四十三はアレルギーについて(痺は風にアレルギーが加わった病気)、痿論篇第四十四は生活習慣病(痿)について、厥論篇第四十五は脳卒中や心筋梗塞(厥)について書かれている。

外来用診療時間	月	火	水	木	金	土	日
午前診療(午前9時～12時30分)							
産科	恵医師	恵医師	副院長	副院長	副院長	副院長	—
婦人科	副院長	副院長	恵医師		恵医師	女性医師	—
漢方	院長	院長	院長	院長	院長	院長	—
産後母子健診	—	○	—	○	—	○	—
助産師外来	○	—	○	—	○	—	—
母乳外来	○	○	○	○	○	○	○
予防接種・胎児スクリーニング・乳児健診(午後2時～4時)							
漢方予約外来	—	—	—	—	院長	—	—
予防接種	院長	—	院長	—	—	—	—
胎児スクリーニング	副院長	—	副院長	—	副院長	—	—
乳児健診	院長	城山医師	院長	—	—	—	—
母乳外来	○	○	○	○	○	○	○
午後診療(午後4時30分～7時)							
産科	副院長	—	副院長	—	恵医師	—	—
婦人科	院長	—	恵医師	—	恵医師	—	—
漢方	院長	—	院長	—	院長	—	—

院長：浮田徹也、副院長：浮田真吾、恵医師：浮田恵、女性医師：交代

■女性医師外来：毎日対応します。

■漢方専門医の漢方外来(月～土)：

内科、小児科、皮膚科、産婦人科、整形外科、耳鼻科、眼科など全科領域に対して、日本東洋医学会漢方専門医が診察及び東洋医学の治療をします。来院順に診察します。予約外来ではありません。毎週金曜日「漢方予約外来(午後2時～3時20分)」を院長が担当します。

当院は、日本東洋医学会漢方専門医研修施設に指定されています。

■産後母子健診：

火曜日・木曜日・土曜日：9:00～予約制 お一人様60分 当院退院後5日目の赤ちゃんとお母さんの状態の診察と保健指導を行います。

■乳児健診：

毎週火曜日には、しほやま赤ちゃんこどもクリニック 城山医師による1ヶ月健診を行います。毎週水曜日には、院長による乳児健診を行います。

■胎児スクリーニング外来：

妊娠20-24週の方。月曜日 水曜日 金曜日 午後2時～4時、1人20分前後。予約制。当院で分娩の方3000円 他院分娩の方5000円

■予防接種 ワクチン接種外来：

インフルエンザ、BCG、四種混合(DPT-IPV)、麻しん・風しん(MR)、日本脳炎、水ぼうそう、ポリオ、ロタウイルス、おたふくかぜ、Hib(インフルエンザ菌b型)、肺炎球菌ワクチン(小児用 プレベナー)(高齢者)、子宮頸癌予防ワクチン、その他

■母乳外来(電話予約制)：

退院した後のママと赤ちゃんの母乳相談や育児相談をプロの助産師がサポートします。授乳や赤ちゃんの体重の増え方、ミルクの飲み具合等について何でもご相談下さい。当院で出産された方 3000円 他院で出産された方 4500円

■不妊外来(月～土 午前診/午後診)：

タイミング指導やホルモン治療や漢方薬治療や精子検査を実施。人工授精も行っております。兵庫医科大学医師の不妊外来は1月1回あります。

■更年期外来(月～土 午前診/午後診)：

漢方薬やホルモン剤やプラセンタ等による総合的な診察を行います。

■日本抗加齢学会専門医のアンチエイジング外来(月～土)：

更年期障害、産後乳汁分泌不全の場合は、健康保険での保険診療。その他のアンチエイジングの場合は、自費診療となります。プラセンタ注射、プラセンタ内服薬やドリンク剤等取り揃えております。その他、各種プラセンタ化粧品もありますのでご相談下さい。日本抗加齢学会専門医が対応します。

■コルボスコピー検査：

子宮頸癌細胞診で問題のあった方には当院で実施します。

■助産師外来(月水金 午前中)：

当院の妊婦健診のうち、妊娠35週～36週頃の妊婦健診を助産師外来とさせていただきます。

皆さんお一人、お一人と触れ合いながら、おひとり45分程度の時間(予約制)をかけ、「自分らしい」妊娠・出産・育児を創りあげていけるよう、ベースプランに沿った支援を心がけます。母乳育児にそなえておっぱいのお手入れの方法もお話します。妊婦健診補助券を利用します。

(ただし、大津市以外の方は差額をお支払い頂く場合があります。)

■前・中期-ママクラス：無料 (当院で分娩の方対象)

第1土曜日(10:00～12:00) 第3土曜日(13:30～15:30)

立合い分娩の方は特にご参加ください。

ママクラスでは院内冊子 (HELLO BABY)にそってお話しします。

■後期-ママクラス：無料 (当院で分娩の方対象)

第1木曜日(10:00～12:00) 第2,3,4土曜日(13:30～15:30)

立合い分娩の方は特にご参加ください。

ママクラスでは院内冊子 (HELLO BABY)にそってお話しします。

■パパママクラス：無料 (当院で分娩の方対象)

第2,4土曜日(13:30～15:30)

パパママに妊婦生活を疑似体験してもらい、出産するママについて学んでもらいます。

■着帯教室：無料 (当院で分娩の方対象)

第4火曜日(14:00～15:00)

腹帯の巻き方にはコツがあります。きっちりとご指導します。

■グラママ・グラパパ孫育て教室：無料 (当院で分娩の方対象)

第3水曜日(13:30～15:30)

おじいちゃんおばあちゃんに孫の育て方、今の育児の方法について学んでもらいます。

■マタニティーヨガ：当院分娩の方は1,000円、他院分娩の方は1,500円

前期:第1火曜日(14:30～16:00) 後期:第3火曜日(14:30～16:00)

マタニティヨガインストラクターによる教室です。

■ママベビーヨガ：当院分娩の方は500円、他院分娩の方は1,000円

第2火曜日(10:00～12:00)

ママと赤ちゃんと一緒に楽しむ産後のヨガ教室です。

■マタニティーフラダンス：参加費500円

初回参加の方:第2金曜日(15:00～16:00) 2回目以降の方:第4金曜日(15:00～16:00)

マタニティフラを通じてお腹の赤ちゃんと一緒に踊りましょう。

■うきこクラブ：無料 (当院で生まれた赤ちゃん対象)

シェアハウス第1木曜日(14:00～16:00) シェアハウス第3木曜日(10:00～12:00)

育児・おっぱい・離乳食についてみんなで話合います。

1ヶ月～12ヶ月の赤ちゃん。

■ベビーマッサージ：参加費500円 (当院で生まれた赤ちゃん対象)

第2水曜日(10:00～11:30/13:00～14:30)

わらべうたベビーマッサージを通じて、ママと赤ちゃんのスキンシップを育みましょう。

■HAPPY 1st BIRTHDAY：無料 (当院で生まれた赤ちゃん対象/該当月に1歳を迎える方)

第4水曜日(14:00～16:00)

赤ちゃんの1歳誕生日はもちろんのことママ1年のお祝いも兼ねた楽しいパーティーです。